

民間病院におけるハイパーサーミアと放射線治療導入の意義

原三信病院 放射線科 寺嶋廣美、高木正統、武藤絵美
添田博康、廣瀬哲雄
臨床工学科 元村哲也、嶽本洋
看護科 井上文江

【目的】

民間病院における癌の治療とハイパーサーミアの役割について考察する。

【対象及び方法】

原三信病院は急性期疾患を対象とする一般的な民間の総合病院である。癌の治療は従来から行われてきた手術、化学療法に加え、2012年6月より Thermotron RF-8 によるハイパーサーミアを開始した。殆どの症例は再発・転移・高度進行例で、大腸・直腸癌、肺癌、泌尿器科癌、膵臓癌、胃癌、乳癌が65%を占めた。加温は主として化学療法との併用で行われ、2014年11月からは高精度放射線治療装置(トモセラピー)を導入し、放射線治療との併用も積極的に行った。

【結果】

2012年6月より2015年7月まで3年間の加温症例は210例であった。治療開始後2年以上経過の83例中、14例(16.8%)が2年以上生存した。そのうち化学療法併用例は10/14、放射線治療併用例は4/14であった。また、多くの症例で全身状態と症状の改善が認められた。放射線治療導入後は、新規加温開始44例の13例(31.8%)に放射線治療との併用を行い併用率は2倍に増加した。

【考察】

民間病院における3年間のハイパーサーミアの意義について検討した。大病院から治療の継続を断われ、紹介や自ら求めて来院する「がん難民」と呼ばれる患者も多い。今後は放射線との併用にて根治例、長期生存例、長期緩和例が増加すると期待される。